

安全データシート  
Tissue Prep

作成日:2011年4月1日

改訂日:2023年4月1日

## 1. 化学品等及び会社情報

化学品の名称	Tissue Prep(ティッシュプレップ)
製品コード	TISP-580、TISP-565
会社名	株式会社ファルマ
住所	東京都渋谷区大山町 36-7
電話番号	03-6407-2570
ファックス番号	03-3465-0300
電子メールアドレス	marketing2@falma.co.jp
緊急連絡電話番号	080-8878-0242
推奨用途及び使用上の制限	試験研究用:病理組織標本作製用包埋剤

## 2. 危険有害性の要約(製品の情報は無いので、成分のデータから区分を推定した)

## GHS 分類

健康に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／ 眼刺激性	区分 2B
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 3(気道刺激性)

上記で記載がない項目は、区分に該当しない又は分類できない

## GHS ラベル要素

## GHS ラベル要素

## 絵表示



注意喚起語	警告
危険有害性情報	眼刺激 呼吸器への刺激のおそれ
注意書き	
安全対策	取扱い後はよく手を洗うこと。 粉じん、ヒューム、蒸気の吸入を避けること。 換気の良い場所でのみ使用すること。
応急措置	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受けること。

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管

容器を密閉し、換気の良い 30°C以下の場所で施錠して保管すること。

廃棄

内容物、容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

### 3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

混合物

成分及び濃度範囲

成分	濃度 (%)	CAS 番号	官報公示整理番号 (化審法/安衛法)
Paraffin Waxes and Hydrocarbon waxes	<98	8002-74-2	(8)-414/-

### 4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

水で洗うこと。

皮膚刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用している場合、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診察、手当を受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

最も重要な徴候及び症状

眼、鼻、のどを刺激することがある。

### 5. 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

棒状放水

火災時の特有の危険有害性

火災時に刺激性又は有害なガスが発生するおそれがある。

熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。

激しく加熱すると燃焼する。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	すべての着火源を取り除く。 作業には、保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用する。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。
安全取扱注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気の吸入を避けること。 換気の良い場所でのみ使用すること。 眼に入れないこと。

### 保管

安全な保管条件	容器を密閉し、換気の良い 30℃以下の場所で施錠して保管すること。
---------	-----------------------------------

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	未設定
許容濃度	
日本産業衛生学会(2021年)	未設定
ACGIH(2017年)	2 mg/m <sup>3</sup> TLV-TWA(ヒュームとして)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

### 保護具

呼吸用保護具	必要に応じ、適切な呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用すること。
眼の保護具	保護眼鏡、保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じ、保護衣を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 物理的状态

物理状态	固体
色	半透明又は白色
臭い	ほぼ無臭

融点／凝固点	54～58.5℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	322℃(沸点)
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	データなし
引火点	198～199℃
自然発火点	245℃
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	該当しない
溶解度	水に不溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	0.83～0.9(水=1)
相対ガス密度	該当しない
粒子特性	データなし

#### 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の条件下で安定
化学的安定性	通常の条件下で安定
危険有害反応可能性	可燃性。酸化剤、強酸類と反応する。
避けるべき条件	熱、火炎、発火源
混触危険物質	酸化剤、強酸類
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素

#### 11. 有害性情報(製品の情報はないので、成分のデータから区分を推定した)

急性毒性	
経口	ラット LD <sub>50</sub> >5000 mg/kg
経皮	ラット LD <sub>50</sub> >3600 mg/kg
吸入:蒸気	データなし
	以上のことから区分に該当しない。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	20人のボランティアでの皮膚刺激性試験の結果、1人にわずかな紅斑が認められた以外、他の19人は刺激性を示さなかったとの報告がある(IUCLID, 2000)ことから区分に該当しない。
眼に対する重篤な損傷性又は 眼刺激性	ウサギを用いた Draize 法類似試験において、軽度の刺激性(IUCLID, 2000)及びウサギの標準 Draize 試験において軽度の記述(RTECS, 2008)に基づき、区分 2B。
呼吸器感受性	データなし

皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	in vivo 試験のデータがなく分類できない。
発がん性	データ不足により分類できない。
生殖毒性	データなし
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ワックスヒュームは眼、鼻、のどに軽度(mild)の刺激性がある(PATTY 5th, 2001)に基づき、区分3(気道刺激性)。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足により分類できない。
誤えん有害性	データなし

## 12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	データ不足により分類できない。
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 処理できない場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	該当しない。
国内規制	該当しない。
注意事項	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。 本品はペレット状に成形されているため、夏期の長時間の輸送においては、30℃以上にならないように注意する。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)
---------	---

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第 57 条第 1 項、  
施行令第 18 条第 1 号、第 2 号別表第 9）

危険性又は有害性等を調査すべき物（法第 57 条の 3）

海洋汚染防止法

有害液体物質 Y 類物質

---

上記内容は当社で入手可能な情報に基づいて作成していますが、記載データや評価に関しては、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。未知の有害性があり得ますので、取扱には十分ご注意ください。  
本 SDS は JIS Z7253:2019 に準拠して作成しています。